

# 紀州漁民の先兵は加太村から？

絵と文・熱田親憲

題字・熱田秦華

紀伊・房総

## くろしお物語

◇16◇

これまで千葉・房州だした紀州側の事情は、紀州漁民の足跡をどうなっていたかを調べてみると、笠原正夫が著した近世漁村の史紀にかけて漁民を送り

だした紀州側の事情は、紀州漁民の足跡をどうなっていたかを調べてみると、笠原正夫が著した近世漁村の史紀にかけて漁民を送り

漁民の関東出漁に出れ、旅網の許可もされ会った。加太浦は潮流の速い紀淡海峡を眺める位置にあり、奈良時代の南街道の要衝の一

つになつていた。昔から海人族と関係深い土地で、13世紀ごろには釣り漁や網漁(サワラ、サコシ、ハマチ)がな

慶長年間(1605年ごろ)の加太荘は6村から成り、家数は約1000軒。お米の村高は1500石以上と大きかった。

村内の有力者の一人であった大甫七十郎が、元和年中(1615年ごろ)に出漁先をした。

宝暦10年(1760年)、加太浦次五兵衛は鶴原村慶戸浦に八手網で入漁し、地元漁民の所有地の利用も拡大した。

明和4年(1767年)には、加太浦の全船数186の内36%の67艘、全網数の30%の21張が関東漁場に出漁して、未曾有の繁栄を

明和4年(1767年)には、加太浦の全船数186の内36%の67艘、全網数の30%の21張が関東漁場に出漁して、未曾有の繁栄を

ひな流し



淡島神社のひな流しの儀式—写真は和歌山市で撮影

## 江戸期に最盛期迎え

薩摩から房総へ転じて鰯漁場を開いた。

元禄2年(1689年)、房総・御宿浦に

加太浦半左衛門、仁左衛門らが下津、湯浅の漁民とともに出漁網15張、漁夫56人で鰯漁に従事していた。(御宿浦旅網覧)

元禄15年(1702年)、加太浦五郎右衛門が下津、湯浅、栖原の漁民と共に、内房富津浦に紀州舟四艘15張

海峽の海運の要衝でも

海運の要衝でも

海運の要衝でも

海運の要衝でも

海運の要衝でも